

定期作況報告

平成17年9月
(9月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

1. 気象経過

8月下旬：最高気温、最低気温、平均気温は平年並であった。降水量は多かった（平年比170％）。日照時間はやや多かった（平年比123％）。

9月上旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比359％）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比121％）。

9月中旬：最高気温は平年より高く、最低気温は平年よりやや高く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比24.4％）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比130％）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は平年と比較して、気温はやや高く、降水量は多く、日照時間はやや多かった。

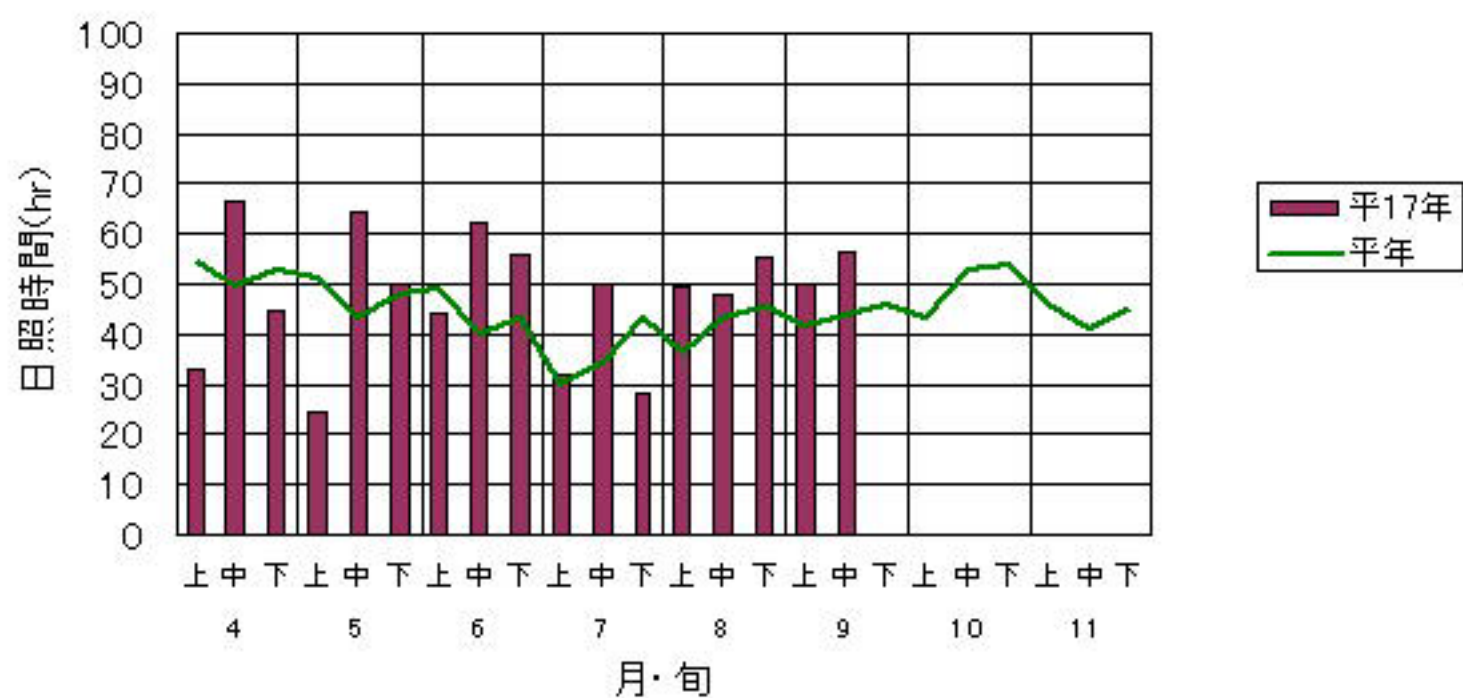
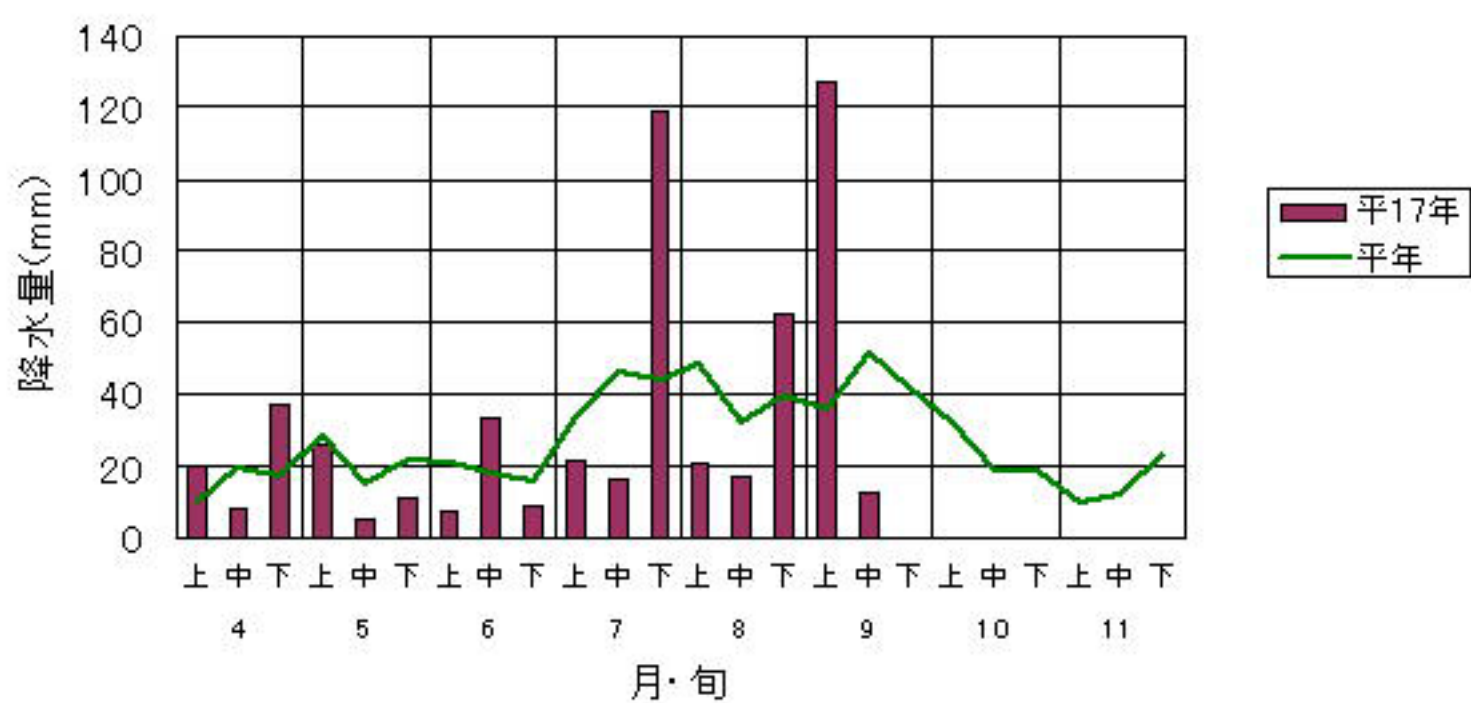
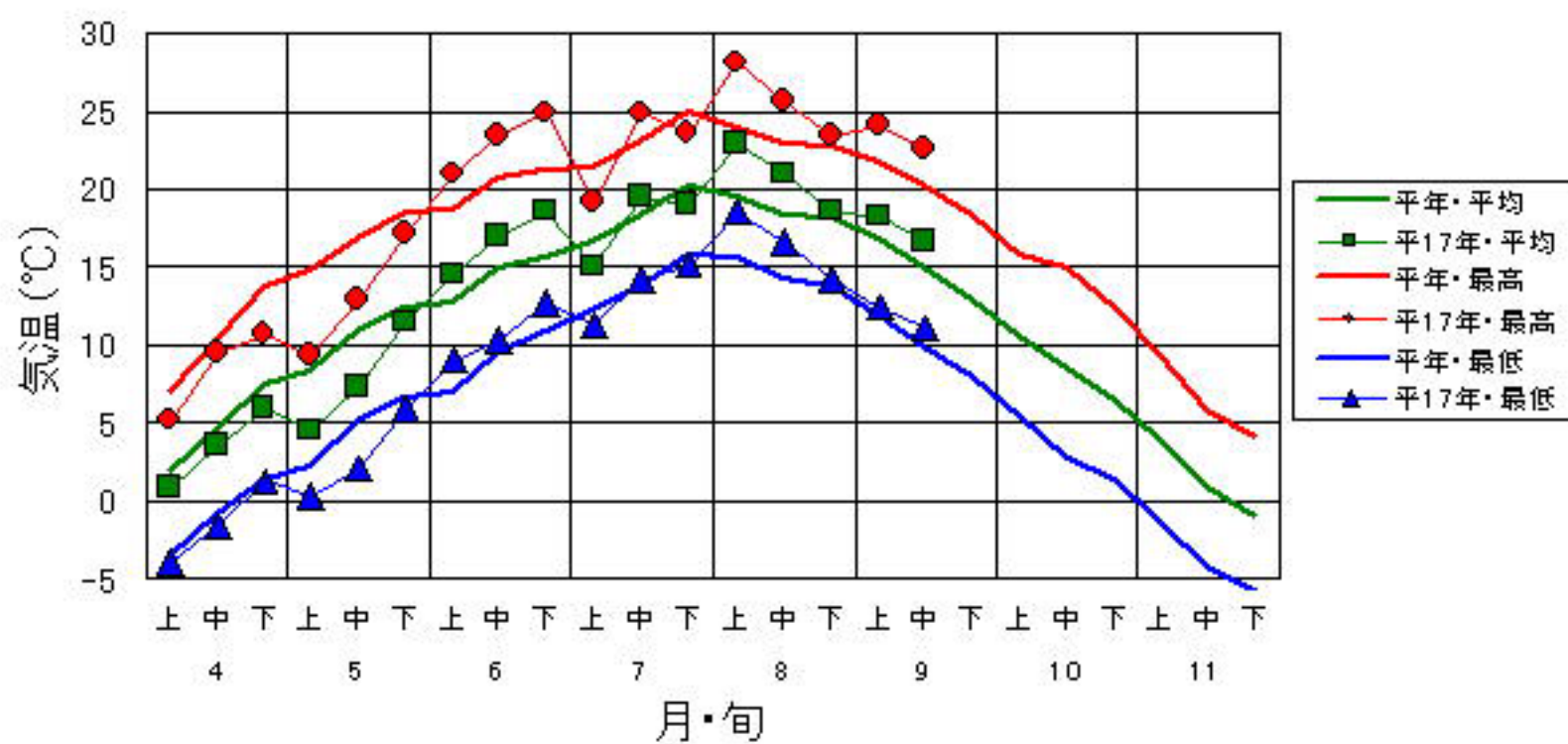
気 象 表

項 目 月 旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
8月下旬	18.5	18.1	0.4	23.4	22.8	0.6	14.2	13.7	0.5
9月上旬	18.2	16.7	1.5	24.1	21.6	2.5	12.4	12.0	0.4
9月中旬	16.6	14.9	1.7	22.5	20.2	2.3	11.2	9.9	1.3
平 均	17.8	16.6	1.2	23.3	21.6	1.7	12.7	11.9	0.8

項 目 月 旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
8月下旬	62.5	39.7	22.8	55.2	44.9	10.3
9月上旬	127.5	35.5	92.0	50.1	41.4	8.7
9月中旬	12.5	51.2	△38.7	56.8	43.6	13.2
合 計	202.5	126.4	76.1	162.1	129.9	32.2

注） 1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2）平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況^{注)}

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 春まき大麦(二条大麦) 作 況：やや不良

事 由：登熟日数は平年並の32日で倒伏の発生もなかった。登熟は良好であり、千粒重及び整粒歩合は平年を上回った。しかし、穂数が平年を下回ったため、子実重は平年比96%であった。
以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

注) 7月および8月に発表した本年の穂数(本/㎡)の値「329」は誤りです。今月発表の「464」が正しい値となりますので、さかのぼって訂正をお願いします。

調査項目	りょうふう		
	本年	平年	比較
出穂期 (月.日)	7.4	7.4	0
成熟期 (月.日)	8.5	8.5	0
穂数(本/㎡) (成熟期)	464	568	△104
穂長(cm) (成熟期)	6.4	6.4	0.0
1穂粒数 (成熟期)	21.0	21.2	△0.2
不稔率(%) (成熟期)	1.1	1.1	0.0
倒伏程度 (成熟期)	無	微	-
子実重(kg/10a)	336	350	△14
同上平年比(%)	96	100	△4
リットル重(g)	661	663	△2
千粒重(g)	53.1	47.3	5.8
整粒歩合(%)	98.0	92.6	5.4
整粒重(kg/10a)	329	329	0
同上平年比(%)	100	100	0

注) 平年値は前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均。

2) とうもろこし(サイレージ用) 作 況：平年並

事 由：平年より9日早い9月15日に収穫を行った。収穫時の穂長は平年より長かったが、収穫時の熟度は平年並で、生総重は平年を約3%下回った。なお、乾物重などは現在測定中である。
以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

調査項目	ディアHT		
	本年	平年	比較
収穫期 (月.日)	9.15	9.24	△9
収穫時の熟度	黄熟期 ～中熟	黄熟期 ～中熟	-
穂長(cm) (収穫期)	236	182	54
生総重(kg/10a)	5722	5880	△158

注) 平年値は前7か年のうち平成10年、16年を除く5か年の平均。

3) 大 豆 作 況：良

事 由：主茎長、主茎節数は平年並～やや下回っているが、分枝数および着莢数は平年より多い。着莢数は平年に比べて「トヨコマチ」が約2割、「トヨホマレ」は約3割上回っている。
以上のことから、現在の作況は「良」である。

調査項目	トヨコマチ			トヨホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm) (9月20日)	58.8	61.3	△2.5	50.2	57.9	△7.7
主節節数 (9月20日)	11.0	11.2	△0.2	11.2	11.6	△0.4
分枝数(本/株) (9月20日)	6.4	5.3	1.1	5.3	4.6	0.7
着莢数(個/株) (9月20日)	73.9	61.1	12.8	92.7	70.4	22.3

注) 平年値は、前7か年中平成10年、16年を除く5か年の平均。

4) 小 豆 作 況：良

事 由：この1か月間の平均気温が平年より高く推移したことから登熟は順調に進み、「サホロショウズ」では平年並の9月17日に成熟期に達した。「サホロショウズ」の主茎長は平年並であるが、「エリモショウズ」の生育は旺盛で、主茎長は約20cm長く全面に倒伏が見られる。着莢数は平年に比べて「サホロショウズ」、「エリモショウズ」とともに約2割上回っている。
以上のことから、現在の作況は「良」である。

調査項目	エリモショウズ			サホロショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)		9.24		9.17	9.17	0
主茎長(cm) (9月20日)	79.7	58.7	21.0	51.2	47.7	3.5
主節節数 (9月20日)	14.6	13.7	0.9	11.6	11.1	0.5
分枝数(本/株) (9月20日)	4.8	3.8	1.0	4.2	4.5	△0.3
着莢数(個/株) (9月20日)	56.0	47.2	8.8	58.0	49.6	8.4

注) 平年値は、前8か年中平成10年、14年および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

5) 菜 豆 作 況：良

事 由：8月下旬の平均気温は平年並であったが、8月上～中旬の気温が高く推移したことから、「大正金時」の成熟期は平年より3日早い8月31日、「福勝」は5日早い9月4日となった。成熟期における主茎長、主節節数は平年並であるが、分枝数および着莢数は平年を上回り、「大正金時」の着莢数は平年に比べて13%、「福勝」は25%、それぞれ上回っている。
以上のことから、現在の作況は「良」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	8.31	9.3	△3	9.4	9.9	△5
主茎長(cm) (成熟期)	44.3	41.5	2.8	44.7	44.7	0.0
主節節数 (成熟期)	5.4	5.4	0.0	5.6	5.5	0.1
分枝数(本/株) (成熟期)	5.6	3.6	2.0	4.7	3.5	1.2
着莢数(個/株) (成熟期)	21.3	18.7	2.6	21.6	17.3	4.3

注) 平年値は、前8か年中平成11年、13年および再播した10年を除く5か年の平均。

6) ばれいしょ

作 況：やや良

事 由：「男爵薯」の枯凋期は平年より5日遅い9月11日であった。枯凋期が遅れたことと、8月下旬から9月上旬のまとまった降水と適度な温度・日照条件により、上いも重は平年を大きく上回った。中晩生の「コナフブキ」もいもの肥大が順調に進み、上いも重は前回よりもかなり増大して平年をやや上回った。一方でん粉価は、植付の遅れに伴ういもの初期肥大の遅れや8月上旬の高温のため平年より低く推移していたが、さらに8月下旬～9月上旬の平年より高い温度条件と多雨の影響を受け「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年を下回り、「コナフブキ」のでん粉重は平年よりやや少なかった。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯凋期 (月・日)	9.11	9.6	5		10.6	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	4527	4346	181
でん粉価(%) (9月20日)	—	—	—	21.1	23.5	△ 2.4
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	908	974	△ 66
上いも数(個/株)	8.9	9.6	△ 0.7		9.5	
上いも1個重(g)	132	96	36		110	
上いも重(kg/10a)	5227	4182	1045		4761	
同上平年比(%)	125	100	25		100	
でん粉価(%)	15.6	16.0	△ 0.4		23.1	

注) 平年値は前7か年中、平成10年、15年を除く5か年の平均。

7) てんさい

作 況：良

事 由：台風14号の通過に伴う多雨の影響は少なく、日照時間も平年を上回ったため地下部の肥大は順調である。また、夜温も低下して登熟に良好な条件が整い、根中糖分も平年を上回っている。

以上のことから、現在の作況は「良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (9月20日)	68.4	63.3	5.1	62.8	59.1	3.7	69.5	67.6	1.9
生葉数(枚) (9月20日)	28.3	31.0	△ 2.7	26.7	29.6	△ 2.9	27.7	28.8	△ 1.1
生葉重(g/個体) (9月20日)	913	878	35	878	908	△ 30	829	970	△ 141
根重(g/個体) (9月20日)	882	793	89	925	828	97	780	670	110
根周(cm) (9月20日)	33.5	32.2	1.3	36.2	33.8	2.4	30.7	29.1	1.6
根中糖分(%) (9月20日)	15.69	15.30	0.39	16.08	15.30	0.78	15.16	14.30	0.86

注) 平年値は前7か年中、直播「モノホマレ」は平成11年、16年、移植「モノホマレ」は平成10年、16年、「アーベント」は平成10年、16年をそれぞれ除く5か年の平均。

8) 牧草（チモシー） 作 況：不良

事 由：9月5日に計測した3番草再生時の草丈が平年より高かったため、10月上旬収穫予定の3番草は平年より多収となることが予想されるが、1～2番草の低収を補うには至らないと考えられる。

以上のことから、現在の作況は「不良」である。

調査項目		ノサツ		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	3番草再生時	54	38	16
乾物収量(kg/10a)	1番草	573	664	△ 91
	2番草	198	279	△ 81
	3番草		182	

注) 平年値は前3か年の平均（耕種概要・調査項目の変更による）。

9) たまねぎ 作 況：平年並（参考）

事 由：「スーパー北もみじ」は8月30日に根切りを行った。「改良オホーツク1号」は8月29日に、「スーパー北もみじ」は9月6日に、ともに平年より15日早く収穫を行った。平均一球重および総収量は両品種とも平年をやや上回ったが、変形球などの発生が多く規格内率が平年を下回ったため、規格内収量はほぼ平年並となった。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯葉期 (月・日)	8.19	8.25	△ 6	9.2	9.13	△ 11
収穫期 (月・日)	8.29	9.13	△ 15	9.6	9.21	△ 15
総収量(kg/10a)	6906	6590	316	8366	8150	216
規格内収量(kg/10a)	5967	6055	△ 88	6759	6960	△ 201
同上平年比(%)	99	100	△ 1	97	100	△ 3
規格内率(%)	86	92	△ 6	81	85	△ 4
平均一球重(g)	218	211	7	267	258	9

注) 平成15年に圃場を変更したため、平年値は平成15年及び16年、2か年の平均。